



福岡市長  
高島 宗一郎

## 「アジアのリーダー都市」を目指して

福岡市は、西暦57年に後漢・光武帝から印綬（金印）を受けるなど、古来より日本とアジアとの交流の窓口として重要な役割を担い、日本の中でもいち早く大陸文化が伝わった都市として、長い歴史を持っています。

また、福岡市は朝鮮半島まで200km、福岡・東京間と福岡・上海間はほぼ等距離にあり、日本の大都市としては最もアジアに近接した都市で、アジア太平洋の20都市と空路で結ばれています。

このようなアジアとの歴史的な関係や地理的な近接性を背景として、福岡市はアジアの国・地域との交流にいち早く着目し、1989年のアジア太平洋博覧会を皮切りに、翌1990年から「福岡アジアマンス」を毎年開催しています。アジアマンスでは、アジア太平洋フェスティバル、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞の3つのイベントをメインに、様々なアジアに関する催しを開催し、福岡にいながらにしてアジアの民族文化などに触れることができるイベントとして、市民の間においても定着しています。

また、アジアの国・地域の小学生が“こども大使”として福岡を訪れ、福岡の文化や習慣などに触れる「アジア太平洋こども会議・イン福岡」を1989年から開催しており、多くの市民が国際交流に参加する機会となっています。

現在では、福岡市のアジアとの交流は、相互理解を図る文化交流や市民交流にとどまらず、経済交流も盛んに行われており、特に、福岡市と釜山広域市を一つの経済圏とし、国境を越えた都市間で連携する「福岡・釜山超広域経済圏形成」に向けた協力事業の推進を図っており、福岡と釜山間の交流の柱の一つとなっています。

また、クルーズ船の寄港数も2012年は、国内外あわせて100回を超える見込みで、福岡・釜山間の定期航路と合わせた博多港の外国航路船舶乗降人員数は、1993年から19年連続で日本一を誇っています。

このように福岡市は、地理的、歴史的に関係の深いアジアの国・地域との交流を推進しており、今後ともアジアにおいて存在感のある都市を目指していくとともに、ビジネス、観光、文化などあらゆる面でアジアの活力を取り込むことで、日本を牽引する“アジアのリーダー都市”を目指し尽力してまいりますので、皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。